

コーヒー 2050年問題とは



2000年のコンピューター問題や2024年の物流問題など、毎年のように「XX年問題」が話題になります。そんな中、「コーヒー2050年問題」をご存じでしょうか？これは、温暖化の影響で生産量が減少し、2050年には今のように気軽にコーヒーが飲めなくなるかもしれないという懸念です。

Q. なぜ生産量が減少するのか（気候的側面）

コーヒーには大きく分けて「アラビカ種」「ロブスタ種」という2つの種類があります。アラビカ種は熱帯の高地で涼しい気温（概ね15～24度）で育ちます。気候変動（温暖化）が進むと暑すぎて育たなくなります。ロブスタ種は熱帯の低地で育ちます。アラビカ種よりは高温（概ね24～30度）で育ちます。雨季の平均気温が1度上昇するごとに収穫量が14%程度減少することがわかっています。気候変動（温暖化）は低地でも起こっており、今後の収穫量が心配されています。

雨量もコーヒーの生育に大きな影響を及ぼします。コーヒーは、乾季の終わりに花が咲いて受粉し、雨期にたっぷり水を吸って実が育つ、というサイクルで成長します。雨季に雨が降らなければ実が成熟しないことがあり、雨が降りすぎれば高湿度によりカビが発生し、そのために木が病気になってしまいます。

Q. なぜ生産量が減少するのか（経済的側面）

気候的な原因によりコーヒーの収穫量が減ることは、生産者の収入減を意味します。コーヒーは主に北緯25度から南緯25度あたりの地域で栽培されます。この地域には開発途上国が多く、低賃金で働く人々もいると思われます。コーヒーの収穫量が減れば、コーヒー農家を続けられず、他の割のいい作物に転作したり、農業を辞めて移住する人も出てくるでしょう。



そしてコーヒー不足へ

気候変動による生産に適正な土地の減少、収穫量の減少による生産者離れから、コーヒーの生産量の減少が予想されている一方、需要は増えるのではないかとされています。2020年から2030年までに世界のコーヒーの消費量は25%増加するという試算もあります。

参照：<https://ccsi.columbia.edu/sites/ccsi.columbia.edu/files/content/docs/our%20focus/Ensuring-Economic-Viability-and-Sustainability-of-Coffee-Production-Briefing-Note.pdf>

世界のコーヒー消費量

25%UP



コーヒーの需要が大きくなっているのは、中国や東南アジアだと言われています。経済成長が著しいことがその要因だと思われます。大きくなる需要に、栽培適地が対応できなければ価格は上昇します。2050年頃にはコーヒーは高級品となり、今のように気軽に楽しむことはできなくなるかもしれません。